

毎授業で行う、「音や音楽を形づけている要素」を知 覚しやすくするための手立ての考察

—5分で行う「プチ理論」の実践—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系(音楽)

御子柴 龍之介

本研究は、生徒に自分自身の意見に自信をもてるようになってほしい、音楽科の授業の中で生徒らの思考が働くような授業をしたいという筆者の考えから始まっている。学習指導要領解説には、「音楽的な見方・考え方とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会伝統や文化などに関連付けることであると考えられる。」と示されており、音や音楽を形づくっている要素とは、学習指導要領によると、各学年の〔共通事項〕に示す音楽を形づくっている要素として、「指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして指導すること。」とされている。

これらが示すことは、音や音楽を形づくっている要素やそれに関わる用語や記号などを生徒が正しく理解することで表現・鑑賞の活動の幅が広がり、より主体的に活動できると考える。そこで教師が音や音楽を形づくっている要素をプチ理論と称したプリントを通して理論を中心に生徒へ紹介し、それを定期的に復習したり、授業内で扱ったりすることでその知識を様々な場面で活用できるようにすることが出来るのか、活動を主体的に行うことが出来るようになるかを確かめることが本研究、実践の目的である。